

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 133人

② 数学 133人

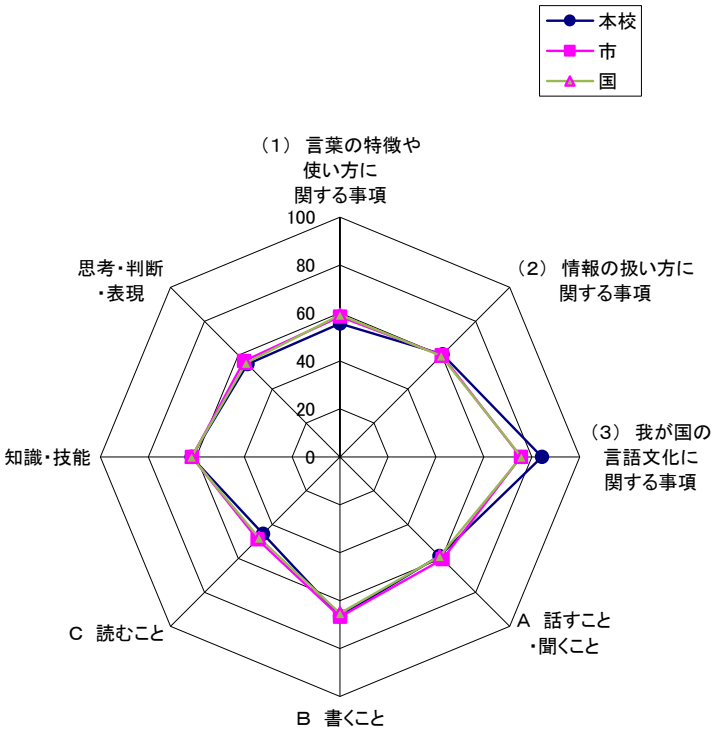
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況  
【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 55.6 | 58.5 | 59.2 |
|     | (2) 情報の扱い方にに関する事項    | 60.5 | 59.9 | 59.6 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項   | 84.2 | 75.4 | 75.6 |
|     | A 話すこと・聞くこと          | 58.6 | 60.4 | 58.8 |
|     | B 書くこと               | 66.5 | 66.8 | 65.3 |
|     | C 読むこと               | 45.5 | 48.7 | 47.9 |
| 観点  | 知識・技能                | 62.0 | 61.8 | 62.0 |
|     | 思考・判断・表現             | 54.6 | 56.6 | 55.4 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度        |      |      |      |



★指導の工夫と改善

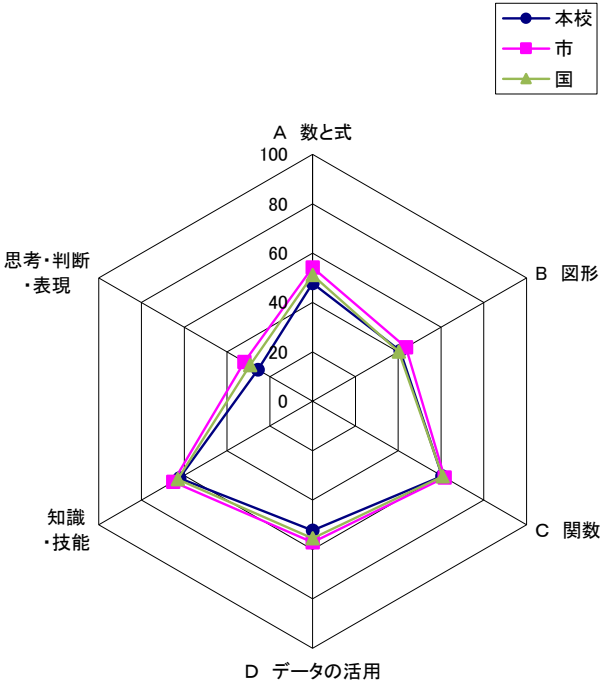
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                                   |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使い方にに関する事項 | ・市や全国と比較して、平均正答率が3ポイント程度低い。<br>○文の成分の順序や照応についてはおおむね理解できている。<br>●文脈に即して漢字を正しく書く力に課題が見られる。                                       | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・すべての学年で購入している「漢字学習ノート」を活用し、漢字の練習に取り組ませる。また定期的なテストを実施することにより、生徒にも具体的な目標を持たせ、漢字の読み書きの力の向上につなげる。 |
| (2) 情報の扱い方にに関する事項    | ・市や全国と比較して、平均正答率はおおむね同程度である。<br>○意見と根拠の関係については市や全国に比べて理解できている。<br>●具体と抽象の関係についての理解に課題が見られる。                                    | ・現在、朝の活動で週に1度実施している「読み方レスキュー」を活用し、正しく読む力を身に付けさせていく。「読み方レスキュー」に取り組むことによって、情報同士の関係を読み解いたり論理的に推論したりする力の向上を目指す。                |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項   | ・市や全国と比較して、平均正答率は8ポイント程度高い。<br>○行書の特徴を正しく理解している。                                                                               | ・行書の特徴を、楷書と比較して考えたり、繰り返し練習したりすることで正しく理解できるよう、指導を継続する。                                                                      |
| A 話すこと・聞くこと          | ・市や全国と比較して平均正答率は僅かに低い。<br>○資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す力はおおむね身についている。<br>●必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力に課題が見られる。                        | ・授業において、他者のスピーチや発表に対し、質問をする場を設ける。<br>・国語の授業だけではなく、学級活動や総合的な学習の時間、学校行事などで生徒の「話す・聞く」力の向上を図る。                                 |
| B 書くこと               | ・市や全国と比較して平均正答率は同程度である。<br>○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力はおおむね身についている。<br>●表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する力に課題が見られる。 | ・「書くこと」以外の単元でも豊かな語彙力を身に付けさせ、場面に即した適切な言葉の選択ができるようにする。<br>・国語の授業だけではなく、学級活動や総合的な学習の時間、学校行事などで生徒の「書く」力の向上を図る。                 |
| C 読むこと               | ・市や全国と比較して平均正答率は2～3ポイント低い。<br>●文章と図を結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈する力や、目的に応じて必要な情報に着目して要約する力に課題が見られる。                                     | ・資料と文章を結びつけながら読む活動や、文章を要約する活動を行う。<br>・現在、朝の活動で週に1度実施している「読み方レスキュー」を活用し、正しく読む力を身に付けさせていく。                                   |

宇都宮市立鬼怒中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と式         | 47.8 | 54.2 | 51.1 |
|    | B 図形          | 40.9 | 43.6 | 40.3 |
|    | C 関数          | 60.5 | 61.7 | 60.7 |
|    | D データの活用      | 52.3 | 57.1 | 55.5 |
| 観点 | 知識・技能         | 62.3 | 65.2 | 63.1 |
|    | 思考・判断・表現      | 25.6 | 31.9 | 29.3 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                                                                      |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と式    | 平均正答率は市より6.4ポイント下回っている。<br>○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすることができる生徒は多い。<br>●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる生徒が3割程度しかいない。 | ・計算問題については、プリントを配付するなどし、自発的に取り組めるようにする。<br>・目的に応じて式を変形したり、論理的に説明することができるよう、計算だけでなく式や文字の表す意味を理解しながら考察できるよう指導する。                                                |
| B 図形     | 平均正答率は市より2.7ポイント下回っている。<br>○回転移動については理解している生徒が多い。<br>●筋道を立てて考え、証明することや、事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことに課題が見られる。                   | ・語句などの基本的な知識や角の大きさなどを求める技能などは、プリントを配付し、自発的に確認することができるようにする。<br>・語句の意味を理解しながら、筋道を立てて論理的に証明できるように思考力を深められるように指導する。<br>・新たな性質を見出すために、1つの事象を様々な視点からも考察できるように指導する。 |
| C 関数     | 平均正答率は市より1.2ポイント下回っている。<br>○二つのグラフにおけるy軸との交点や、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる生徒が多い。<br>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。                   | ・式や表、グラフについては、プリントを配付するなどして自発的に取り組めるようにする。<br>・様々な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができるように、いろいろな事象について取り組むよう指導する。                                                     |
| D データの活用 | 平均正答率は市より4.8ポイント下回っている。<br>○与えられたデータから最頻値を求めることができる生徒は多い。<br>●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。                         | ・確率を求めたり、最頻値などの数値を求めることに關しては、プリントを配付するなどして自発的に取り組めるようにする。<br>・様々なデータを用いて、数学的に傾向を読み取ったり、比較する判断の利用を最頻値などの数学的な表現を用いて説明したりできるように指導する。                             |

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(4)「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、83.5ポイントが肯定的な回答をしており、県平均(85.6ポイント)と全国平均(83.3ポイント)と比べ同程度となった。また、(5)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対しては、「当てはまる」と回答した生徒が54.9ポイントで、県平均(52.5ポイント)と全国平均(44.2ポイント)を上回っている。生徒の自己肯定感を高めるために、帰りの会で「今日のキラリさん」(一日で良い行いをした人)の発表をしたり、良い行いをしている人や学級を学年朝会で表彰したりしている。生徒指導の中でも理不尽に叱るのではなく、良さを認め、寄り添う指導を続けてきた。今年度の学習発表会でも有志発表を久しぶりに行ったが、オーディションに多くの生徒が申し込んできた。誰もが認めてもらえる雰囲気があるからこそ、多くの生徒が積極的に前に出ることができていると考えられる。

○(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して、76.7ポイントが肯定的な回答をしており、県平均(70.5ポイント)と全国平均(67.5ポイント)を大きく上回っている。大小さまざまな悩み事が絶えない多感な時期に、身近な大人が相談にのってくれることは大切である。普段から担任は宮っ子ダイアリーでのやりとりをはじめ、毎日多くの生徒に声をかけながら、子どものちょっとした変化に気づけるように動いている。また、一人の教師が抱えることなく、多くの教師が連携し生徒に対応できるような体制が作れている結果であると考えられる。

○(23)「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)」という質問に対して、201冊以上と回答した生徒が11.3ポイントあり、これは県平均と比べて1.2ポイント高い。望ましい読書習慣の形成の為に、家庭で保護者等家族が進んで本に親しむ姿勢を見せることが効果的であることから、今後も家庭に対して「家読」の啓発と推進に努めていく。

●(21)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という質問に対して、1時間以上と回答している生徒は、46.6ポイントであり、これは県平均(69.3ポイント)と比べて、22.7ポイント低く、全国平均(64.3ポイント)と比べて、17.7ポイント低い。十分な家庭学習の習慣が身につけているとは言えない状況である。家庭学習の習慣化に向けて、各家庭に理解と協力を求めるとともに、進んで取り組んでみたくする課題の在り方や、一人一台端末を活用した個別最適な課題の提示方法について、研究を進める。

●(34)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対して、肯定的に回答した生徒は20.3ポイントであり、これは県平均(31.3ポイント)と比べて、11.0ポイント低く、全国平均(27.1ポイント)と比べて、6.8ポイント低い。自分の学びを客観視して、次の学びに生かす態度に課題がある。授業においては、振り返りの活動を授業や単元の終末に取り入れているが、今後は、自らの学びを振り返る時機や、振り返りの問いそのものを工夫することによって、自らの学びに対する成果や課題に生徒自身が一層自覚的になることによって、意欲的に学習に取り組めるようにする。

宇都宮市立鬼怒中学校 (第3学年)  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組     | 取組の具体的な内容                                | 取組に関わる調査結果                                                                                             |
|------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 語彙力と読解力の向上 | 毎週木曜日の朝の活動の時間に、読解力を高めるための補助教材を全校同時に実施する。 | (23)「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)」という質問に対して、201冊以上と回答した生徒が11.3ポイントあり、これは県平均と比べて1.2ポイント高い。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                      | 重点的な取組                            | 取組の具体的な内容                                             |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 進んで語彙を増やしたり、言葉に関する理解を深めたりする意欲や態度。 | 語彙力や読解力を向上させる取組を、国語科だけでなく、各教科で行う。 | 各教員が校内研修の一環で行う授業公開において、各教科の特質に応じて、読解力や語彙力を向上させる工夫を行う。 |